

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600298
法人名	医療法人 八十八会
事業所名	グループホーム こすもすⅡ
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市国分町2050-1 (電話) 0942-21-0836
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年3月18日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 11人, 非常勤 7人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		986 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新古賀病院、聖ルチア病院、佐藤浩一歯科クリニック、辻胃腸科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

白とベージュの優しい色の外観を呈したホームの前には桃太郎川が流れ、車の通りが少ない静かな住宅街にホームは位置している。ホームの一边には居室から出入りできる散歩道が、その先には菜園があり、居ながらにして自然と触れあえる空間となっている。四季折々の菜園を大家族ならではの楽しい共有の時間として楽しんでいる。日々の生活が「ゆっくり、たのしく、一緒に」過ごせるようにと、家庭的な雰囲気を大切にされており、食事のときや談話のときなどに現れている。母体の医療法人との連携や地域との関わりを大切にされており、利用者、職員が安心して生活できる体制ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	権利擁護に関して職員全員で改善策に取り組み、理解を深めるように努めている。同業者との交流については実施に至っていない。現在実施に向けた取り組みを検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は全職員に自己評価の内容や意義を伝え、職員全員が理解して取り組んでいる。前回の評価に対しては、全職員で改善や自己評価に取り組み、毎日の介護に反映できるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者代表・家族代表・行政・民生委員・管理者・職員が参加している。写真を盛り込んだ資料を配布し、日々の生活や活動内容を報告している。問題点や外部評価について参加者から貴重な意見や助言を受けている。会議で討議された内容は全職員でサービスの質の向上に活かせるようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議や面会時などで家族の意見や苦情などを把握するようにしている。特に家族の来訪時には職員が積極的に聞き取りを行っている。意見、不満、要望が出された時は職員間で話し合って運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治区会に加入しており、地域の行事やお祭りには利用者と職員が参加し、地域の方たちとの出会いを大切にしている。校区(中学校)主催の集いではホームの生活のビデオを渡し、地域住民との交流を深めることに努めている。ホーム主催の夏祭りには地域住民にも参加してもらい、利用者と共に楽しい時間が過ごせるように支援している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をつくる際に職員全員で意見を出し合い、利用者との会話を大切に、地域の中でその人らしく楽しく暮らし続けることを目指した事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りではホームの理念を唱和し、月1回の全体会議では理念の大切さや実践に向けての確認を行っている。毛筆で書かれた手書きの理念が、玄関に入ると目に付く位置に掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治区会に加入し、地域の行事やお祭りなどには利用者、職員が参加している。ホームの夏祭りには地域住民も参加している。校区主催(中学校)の人権の集いに参加したり、集いの場ではホームの活動状況をテーブルで話し、地域住民との触れ合いを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に自己評価の内容や意義を伝え、職員全員が理解して取り組んでいる。前回の評価に対しては、全職員で改善や自己評価に取り組み、毎日の介護に反映できるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月2回、利用者代表、家族代表・行政・民生委員・管理者・職員等が参加している。会議では、行事時の写真を盛り込んだ資料を配布し、ホームの生活、活動の報告を行っている。気づきや質問、意見、要望などを聞き、ホームの活動に活かせるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連携を保ち、利用者の問題が発生した場合や現場の指導などへの支援を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットを取り寄せて、管理者、職員間で理解を深めている。玄関にパンフレットを置き家族にも説明ができるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求書の発送と、利用者の日々の様子や活動を写真にし、2ヶ月に1回ホーム便りとして発送している。家族の面会時にはホームの様子や利用者の健康状態、日々の生活状況などを報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などで家族の思いや意見を把握している。玄関には「ご意見箱」を置いている。家族の訪問時には職員から声をかけ、聞き取りを行っている。苦情処理委員会の設置や介護相談を受け入れている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の場合、基本的には1ヶ月の引き継ぎ期間を設けて利用者へのダメージを少しでも少なくする配慮を行っている。各ユニットの職員を固定化して馴染みの関係を築いている。月二回のユニット間交流で、別ユニットの職員とも馴染みの関係を築けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに面接し、採用を行っている。また、職員一人ひとりの希望を聞き入れ、職員が働きやすい環境づくりに努めている。料理の得意な人、趣味を活かしたレクリエーションなどで職員が生き生きと活動できるように取り組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々の業務の中で人権を損なうような言動が見られるときは、その場で職員に指導助言をしている。月一回のミーティング、法人主催の人権学習、校区の人権の集いにも参加し、人権を尊重する介護の実践に向けての教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や外部研修への参加も職員の勤務体制を整えて参加できるようにしている。研修担当者を設置しており、新任者教育や、月1回の職場会議での伝達研修で職員の育成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前回評価であげられていたが、現時点での取り組み改善には至っていない。サービスの質の向上のため、同業者との交流を実現したいと検討中である。	○	管理者や職員が同業者と勉強会や相互訪問などで交流を実現し、サービスの質の向上に活かされる取り組みが望まれる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず家族に、続いて利用者に見学していただき、ひとときを入居者と共に過ごしたり、お茶を共にしたりして馴染んでもらっている。また、職員が在宅への訪問も行っており、安心してサービスが利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生経験で培われた特技や能力(菜園、折り紙、料理など)を日常生活やレクリエーションなどに取り入れている。時には子育てや親子関係などについて利用者に教わったり、楽しみを共にし、一緒に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の利用者との関わりの中で、言葉や表情から思いを汲み取っている。言葉で訴えることが困難な利用者には、家族や関係者などから面会時に希望や意向について伺っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族には日頃の関わりの中で希望や意向を伺い、また全職員から情報収集し些細な変化も見逃さないようにして利用者本位の介護計画を作成している。作成後は家族・全利用者一人ひとりに説明を行っており了解を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。利用者の日頃の状況を把握し、健康面や日常生活に変化が生じたときや利用者・家族の要望に応じても随時見直しを行い、現状に合う介護計画書作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎など必要な支援は、利用者・家族の状況に応じて職員が行っており、利用者が満足していただけるよう努めている。地域のボランティア(演芸など)の方が来られるときは、家族を呼んでホームで一緒に楽しんでいただいている。近隣の幼稚園と、交流会などの話し合いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居する際に本人・家族と話し合い、希望に添って決めている。受診や通院は基本的に家族同行となっているが、状況に合わせて職員が代行している。また、受診時医師からの説明等は家族、職員共に共有できるように伝達している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時にホームの方針を説明し利用者や家族の意向を同意書で確認している。対象者には、段階的に関係者との連携を密にししながら重度化にむけた話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応・言葉かけには十分に気を付けており、職員はお互いに気づいた時には注意しあっている。また、職員採用時に個人情報保護に関する説明を行い、契約書の提出を義務付けている。個人情報や記録物は事務所に保管し、取扱いには細心の注意を払っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その日その時の利用者の気持ちを最優先にしている。朝遅く起きる方にはその方に合わせて朝食を提供したりして、希望や意向を尊重した個別性のある柔軟な対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人母体の栄養士が作成したメニューに基づいて提供している。おやつはその日の利用者の希望に添いながら利用者と一緒に作っている。職員も利用者と一緒に摂食し、楽しく談笑し、心地よい音楽を聴きながら食卓を囲んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間(昼食後から夕食前)は決まっているが、入浴は毎日可能である。現在は入浴を強く拒否する方はいないが、常に心地よく入浴ができるよう職員は連携しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに役割があり、自ら「～がしたい」などの意思表示もあり、各々の力を発揮してもらっている。季節の花見を兼ねてドライブに行ったり、天気の良い日はホーム周辺を散歩し地域の人々と交流を図っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺には同一法人のグループホームがあり散歩の際に立ち寄りたり、本人の希望に添って外出をしている。また歩行困難な方も車椅子にて散歩に出かけている。利用者がホーム内だけで過ごすことがないように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外に外出しそうなときはさりげなく声をかけ一緒に行動している。近隣の方にも散歩の時に入居者の状態を話して、理解や協力が得られるようにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間を想定し、消防署の協力をえて年に2回避難訓練を行っており、職員避難経路を把握している。避難経路を掲示し懐中電球・メガホン・非常食を常備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録表に食事摂取量、水分摂取量などを記入しており、健康状態の把握に努めている。介助が必要な方にも食べやすい工夫をして、自立支援に向け一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隅々まで清掃がいきとどいており、リビングにある窓から明るく気持ちの良い陽射しが差し込み、ゆったり豊かな気分になれる。台所からはご飯の炊ける匂い、サクサクと包丁で食材を切っている音が聞こえ「家庭の雰囲気」を感じることができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には洗面場が設置されている。利用者思い思いの作品や家族からのプレゼント・写真が飾られている。また、自宅から馴染みのある生活用品が持ち込まれている。</p>		